

3・25青年部単独200名動員を実現するぞ！

— 動労千葉5割大動員の先頭をきる青年部 —



84. 2. 29

No. 1576

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六）公衆（〇四七）二二（七）七二〇七

2/25 全支部青年部三役会議南なる

3・25へちょうど一カ月前にした二月二十五日、「3・25三里塚へ青年部単独二〇〇名（五割以上）の結集をかちとろう」と、全支部青年部三役会議が開催されました。

「青年部こそ最先頭に」
「原則を貫き必ず勝利を」
布施書記長、鈴木幸司さんも
「かけつけ、激励と訴え」

会議は、佐藤常任委員の司会で開会、内田常任からの主催者あいさつをうけてはじまった。

続いて来賓として、本部より布施書記長、そして三里塚反対同盟からは、芝山町議選の勝利をかちとったばかりの鈴木幸司さんよりあいさつをうけた。布施書記長は、「青年部二〇〇名の目標を聞いた。しかし、二〇〇名は最低の実現目標であり、二〇〇名をいかにこえるのかということを含め、日論議して決意を固めてもらいたい」と提起した。

鈴木さんは、「私は、芝山町議選のなかで『二期工事を絶対に阻止しよう』ということ以外何もいかなかった。十八名中の第六位という高位当選を果たしたが、その裏にはもつと広範な空港反対の声がある。闘いの原則を貫けば必ず勝利できることの証明である。脱落派は、『空港の利権は魅力的だ』『敷地内はまるごとうつれるからいい』と暴言をはき、架空名のデマビラをばらまき、真夜中に『鈴木事務所』を名のって謀略電話をかけて、住民の反感をかきたてようとするなど、その反動的な正体を鮮明にさせた。これからも初心を貫いて必ず勝利します。3・25へ全力結集を」と訴えた。

3・25大爆発の力で「三里塚―国鉄」
決戦の勝利をきりひらく

― 常任委員会より鮮明な方針と決意 ―
最初に、田中青年部長より「臨調国鉄攻撃の本質―これとしかに闘うか」と題する、会議の第一テーマの提起がなされた。

昼食をはさんで加田常任に司会をかわり、三里塚闘争十八年間の記録映画「風と炎の記録」が上映された。非妥協・実力闘争を貫いて国家権力と対決する生々しい闘いの記録は、三里塚闘争のすばらしさを鮮かに示すものであった。

続いて、会議の第二テーマとして、新藤副青年部長より、「全青年部員は、3・25 五割動員の先頭に起て」と題して、次の内容の提起が行われた。すなわち、

① 二期決戦をめぐる情勢は待ったなしに煮つまり、三里塚十八年の闘いの総決算が問われようとしている。その背景には「国家存亡の危機」を戦争によってのりきろうとする日帝の危機が存在する。

② 今日、あらゆる既成勢力が屈服を深めるなかで、唯一三里塚のみが実力闘争を貫く正義の闘いであり、中曽根を打ち倒し勝利することのできる闘いである。

③ 今日の動労千葉をつくりあげてきた力の源泉も三里塚との連帯のなかにあった。

④ 臨調・国鉄攻撃をうち破るうえでも、三里塚闘争が決定的な意味をもっている。

⑤ 権力・公団と結託して反対同盟破壊の卑劣な陰謀を策す脱落派を粉碎しなければならぬ。

以上の五点が明らかにされ、「三里塚闘争の勝利を何としてもかちとろう！ 動労千葉結成五周年を期して、新たな飛躍をかちとる出発点として、青年部二〇〇名結集のこの闘いにチャレンジしよう！」と熱烈な訴えで提起はしめくられた。

奮闘は開始された！

あと一カ月、死力を尽くそう

― 各支部青年部より報告と決意 ―

以上の提起をうけて、職場でおこっている様々な問題等、質疑応答の後、3・25へ向けた各支部の報告が行われた。「すでに青年部員の五割が年休をとってオルグも終了している」（館山）。「冠婚葬祭以外は全員参加を確認して取り組んでいる」（成田）。「役員会で全員十割の参加を確認して取り組んでいる」（学園協）。執行委員全員年休を決定してオルグをしている（新小岩・津田沼・千葉転など）等々、各支部の報告が行われ、最後に「あと一カ月全力を尽くそう」と、繁沢書記長からまとめで方針が提起され、意気も高く組合歌唱（笹生常任）、団結ガンバロー（高橋常任）で会議の全日程を終了した。

これまでの取り組みの成果のうえに、あと一カ月を青年部の力でけん引しぬこう！